

## 【旭区】令和2年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年2月5日（水） 14時30分 ～ 16時30分
場 所	旭区役所新館2階 大会議室
出席者	<p>【座長】佐藤 茂 議員</p> <p>【議員：5名】古川 直季 議員、小粥 康弘 議員、河治 民夫 議員、大岩 真善和 議員、木内 秀一 議員</p> <p>【旭区：36名】下田 康晴 区長、小磯 行生 副区長、岡ノ谷 雅之 福祉保健センター長、齋藤 真美奈 福祉保健センター担当部長、渡邊 知幸 旭土木事務所長、川村 滋 旭消防署長</p> <p>ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】</p> <p>令和2年度予算（案）について</p> <p>【報告】</p> <p>1 消防署の機構改革について</p>
発言の旨	<p>【議題】</p> <p>1 令和2年度予算（案）について</p> <p>河治議員：「商店街振興事業」について、旭区は高齢者が多く、商店街は大事な資源だが、空き店舗や活力の観点から、商店街の数・店舗数の5年間の推移を伺いたい。</p> <p>神田地域振興課長：現在、旭区商店会連合会には9の商店街が加入している。店舗数については、平成27年度421店、28年度409店、29年度409店、30年度363店、令和元年度331店と推移している。5年間で区商連に加入している商店街が2減っているため、店舗数も減っている。</p> <p>河治議員：高齢化が進む中で、家から近い場所で買い物する、賑わいを満たすという意味で商店街は重要。減っているというのは寂しいこと。地域とどのような街をつくっていくか、商店街だけの問題ではなく、地域まちづくりの問題として重要なことである。自治会町内会にも投げかけていてもらいたい。</p> <p>神田地域振興課長：商店街の課題はあるが、活路を見出すために新しい取組が可能な</p>

いか、区役所も一緒になって知恵を絞っている。元年度は旭区誕生 50 周年を記念して商店街を盛り上げるためにグッズを作成し、昨年度は「あさひの逸品商店街」の冊子に新しい認定店や観光名所などを盛り込むなど改訂を行った。他にも、商店街活性化イベントに助成している。また、横浜 FC と協働して「区制 50 周年あさひ・せや区民 DAY」に商店を出してもらい、盛況だった。あらゆる手段を用いて商店街を盛り上げていきたい。

河治議員：「水・緑・花を暮らしに取り入れた旭区魅力アップ事業」について、自然に恵まれているのは子ども達を育てる上でも大切なことで、子ども達にも積極的に取り組んでほしいと思っている。「ホテルの舞う里づくり」は学校や地域が独自で取り組んでいるのか。「ふるさとの川環境学習」は実施校数が経年で見ると減っている。もっと増やして行ってほしいと思うが、何か課題があるのか。

中村区政推進課長：「ホテルの舞う里づくり」は、若葉台ほたるの会と星槎中等学校が地域と学校連携で取組を行っている。令和 2 年度は新たに旭北地区で実施予定。ぜひ子ども達にホテルを見せたいと地域の方も意気込んでいるので、子ども達を巻き込んで、自然を学びながら取り組んでくれることと思う。区としても支援を行っていきたい。「ふるさとの川環境学習」は、毎年募集しているが、学校カリキュラムの都合もあり、数は減っている。引き続き、実施校数が増えるように働きかけていきたい。

河治議員：追分市民の森にもホテルの自生場所がある。自然を知らせていくことと同時に、地域でも積極的に活用しながら旭区の魅力を培ってほしいと思っている。

「希望ヶ丘駅周辺のまちづくりに関する検討」について、今後、具体化へ向けて進めていくと思うが、今年度に業者に委託してまとめた結果が出されると聞いている。3 年度以降にまちづくりの方向性を具体化とあるが、どのようなスケジュールなのか伺いたい。

中村区政推進課長：今後の進め方については、今年度、調査結果を踏まえて将来目標案や方針案を作成する。来年度は、それを地域の皆様と共有し、話し合いながら目標を浸透させていきたい。それと並行して、有識者へのヒアリングとして他の地域でまちづくりに取り組んでいる実践者や民間事業者に、希望ヶ丘にどのようなポテンシャル・市場性があるか確認していく。また、土地利用ということで、地権者の意向確認も必要になってくる。地権者の中には「前向きに希望ヶ丘のまちづくりに取り組んでいきたい」と姿勢を

示してくださる方もいる。地権者の意向確認、地域の皆様との話し合い、市場性の確認、この3つを総合的に組み合わせながら、将来の目標案を作っていく。目標案については、ハード面の課題も少なくないのと地権者の合意形成等も必要なので長期スパンで考える目標になる。

河治議員：事業そのものが旭区のマスタープランに書かれている課題なので長期的に進めるのは当然だが、同時に、取組の中で今すぐ、安全性の問題・地域要求を実現できるものがあれば随時、大きな方向性と結合しながら進めてほしい。

「災害に強い区づくり事業」の「防災活動事業」について予算が拡充される中で、不良資機材の修繕とあるが、現状はどのような状況なのか。

石川総務課長：不良資機材の修繕は継続事業だが、地域防災拠点に備蓄されている発電機の不良が多い。これは、訓練の後、ガソリンを入れたまま保管していたケースが多く、この修繕に費用がかかる見込みである。予算の拡充としては、例えば備蓄品の拡充があり、元年度、台風15号・19号の大雨の際に自主的に避難する方の施設を4箇所開設したが、その中の1か所で停電したことがあった。そのような事態に備えるため、投光器や蓄電池の購入を考えている。

河治議員：防災のための備えなので、随時、点検も含めて対処をお願いします。「帷子川未改修区間カメラ管理事業」について、大栗橋付近にWEBカメラが設置されると大きく改善されると思うが、その地域への避難勧告や周知はどのような形で行われるのか伺いたい。

石川総務課長：大栗橋付近のWEBカメラはすでに設置済で、予算に計上しているのは運用経費となる。台風15号・19号の際にも、大栗橋に設置したWEBカメラで河川水位の状況を見ながら避難勧告を発令した。

河治議員：「福祉避難所開設・運営支援事業」でエアベッドを備蓄物資として、全施設の受入人数分確保とあるが、何箇所の施設に何個のエアベッドを備えるのか。

杉本高齢・障害支援課長：旭区内には66か所の福祉避難所があり、定員が合計で2,286人となっている。

河治議員：こういったベッドが大事だと聞いているので、盛り込まれているのは嬉しく思う。

「子育て・若者支援事業」の「困難を抱える若者支援事業」について、8050問題が大きな課題になっているが、旭区での状況を伺いたい。

大井生活支援課長：生活支援課では、30年度に15件、元年度に26件の引きこもり相談を受けている。40歳以上の方を含めて相談は増えている。

河治議員：具体的にはどんな形のアドバイスや支援を行っているのか。

高橋学校連携・こども担当課長：1月から3月にかけて、西部ユースプラザと連携して事業を進めている。ユースプラザでの居場所づくりに加え、ユースプラザから更に外へ促す取組として就労体験を実施し、昨年であれば、二俣川地域ケアプラザでの作業に1名、特別養護老人ホームでの清掃等の手伝いに1名が参加した。

河治議員：ユースプラザまで出向いていくことができるというのは良いことだが、そこに至るまでの人が相当いるのではないか。地域との懇談を持ちながら、どのような支援が可能かということも含めてやっていただきたい。

高橋学校連携・こども担当課長：局事業で「ひきこもり等の若者支援事業相談会」を実施している。地域の方に地域ケアプラザまで来ていただき、研修会を実施し、理解を深めてもらう取組を行っている。

木内議員：別紙の3「SDGs未来都市の実現に向けた大規模団地再生事業」について、大規模団地の中にひかりが丘団地が入っていないようだが、なぜか。

中村区政推進課長：ひかりが丘団地・西ひかりが丘団地については、これまで福祉的支援を中心に行ってきた。現在は、中山駅への交通移動の改善検討など、利便性の向上という意味で取り組んでいる。別紙の3(1)「SDGsの視点を取り入れた未来に向けたまちづくり」の中で「ひかりが丘団地・西ひかりが丘団地のまちづくりの検討支援」と位置づけ、事業を展開していきたい。

木内議員：中山駅への交通移動の改善検討というのは地域の大事な視点なので、引き続き進めてほしい。別紙の3(2)「学校跡地の活用検討」について、若葉台西中学校跡地は地元の連合でも強い要望があると聞いているが、具体的に計画があれば伺いたい。

中村区政推進課長：暫定利用が長く続いているため、地域から、早く検討を進めて本格活用に結び付けてほしいという要望をいただいている。財政局や市民局等の関係局と、どのような事業スキームが可能か、検討を定期的に続けている。来年度も引き続き、本格活用に向けた事業スキームの確立のために検討を進めていきたい。

木内議員：いつごろどういう形でというところまでは落とし込めていないようなので、引き続き進めてほしい。

「子育て・若者支援事業」の「困難を抱える若者支援事業」について、若者に限らず、50代・60代の方も専門の相談を受けることができるという理解で良いか。

大井生活支援課長：50代・60代の方の相談も、区役所でしっかりと受け入れる。問題が複雑に絡んでいる場合があるので、一つの課で抱えるのではなく、連携してチームで支援している。

杉本高齢・障害支援課長：高齢・障害支援課でも、30年度に104件の相談を受けている。ケースワーカーや嘱託員が訪問して支援にあたっている。

大岩議員：「あさひ魅力発見事業」の「こども自然公園の魅力向上に向けたパークマネジメントプラン策定の検討」について、Park-PFIの手法は、里山ガーデンで実施されてからなかなか次へと繋がっていない。Park-PFIのプランは民間企業が手を挙げて提案するものと思っていたが、区政推進課や地域振興課がプランを作って環境創造局に上げていくというやり方なのか。こども自然公園のPark-PFIは、どのような形で行われるのか伺いたい。

中村区政推進課長：こども自然公園は大変ポテンシャルの高い公園であり、公民連携の手法を使って活性化していきたいと考えており、環境創造局に区提案として提案した。その対応として、今後、環境創造局がパークマネジメントプランを策定し、公民連携の手法についてもその中で検討していくと聞いている。旭区としても引き続き、この動きを加速化していきたい。

大岩議員：良い公園なので、キャンプなど様々な活用できるようにしてほしいという声をいただいているので、よろしくお願いします。

「希望ヶ丘駅周辺のまちづくりに関する検討」について、来年度・再来年度、どのように進めていくかというスケジュール感が非常に重要だと思っている。現状のヒアリングをしている中で認識している課題や途中経過を伺いたい。

中村区政推進課長：ヒアリングをしている中で出てきた意見としては、「保育園や学校が多く、地区センターや地域ケアプラザも揃っていて子育てしやすい環境である」「地域活動が活発で、特に音楽を通じたコミュニケーションなども活発になっていて、コミュニティが醸成されている」というものがある。一方で課題としては、「道路が狭くて歩道がない」「一方通行が多い」「都市計画道路が進んでいない」「駅に三ツ境側の改札を作ってほしい」などの声をいただいている。

大岩議員：いろいろ課題があると思うが、ヒアリングを進めながらまとめてほしい。

次の質問は漠然としたものだが、健康の問題やひきこもりの問題など、社会的に孤立して、なかなか相談できなかつたり、健康の問題を誰かに話す場がなかつたり、子育てでも住んでいる近くでちょっとしたことを話せる居場所が欲しいということがある。ハートフルポートのようなコミュニティカフェが、旭区内でもいろいろなところででき始めているが、そうした民間の人たちが立ち上げた場が出てきた話を区役所の支援窓口に繋げていく流れができていくように後押しをやっていかなければいけない。区役所が全て解決するのはマンパワー的にも予算的にも厳しいと思うので、民間やNPO等、地域の力を借りていくような取組が必要ではないか。御意見を伺いたい。

杉本高齢・障害支援課長：生活再生支援事業を行っており、地域ケアプラザに生活支援コーディネーターがいる。地域課題を解決するという視点で、生活支援や社会参加、介護予防を行ったり、交流拠点を区と連携しながら支援して立ち上げたりしている。地域ケアプラザの生活支援コーディネーターや区役所にお話しいただければ支援して一緒に取り組んでいきたい。

大岩議員：地域ケアプラザの生活支援コーディネーターに情報が集まっていると思うが、区・横浜市としても、もう一歩進めるような取組や仕組みづくりが必要だと思っている。

SDGsの取組で予算が増えたことは素晴らしい。旭区はSDGsの取組が進んでいるが、さらに飛び抜けて進んでいる地域にすべきだと思っている。地域の人には、まだSDGsがよくわかっていない方もいる。その中で、いろいろな取組ができるし、やっていく必要がある。例えば、希望ヶ丘では地域の方が自主的に勉強会を行っており、今後、プラスチックを減らそうとか、買い物でポリ袋をやめようとか、子ども会と一緒にペットボトル回収を点数化してゲーム形式で行うといったような取組も具体的になっていくと思う。若葉台や左近山だけではなく、希望ヶ丘や笹野台にも関心を持った方は多くいるので、区としても一緒にやっっていこうというメッセージを出せば動き出すのではないか。地域の活動を支援するという視点についてはどう考えているか。

中村区政推進課長：2年度から区づくり推進費で、「きらっとあさひ地域支援事業」に「SDGs取組枠補助金」を新たに設けた。元年度は、従来の区配予算の補助金の中でSDGs取組枠を実施しており、コミュニティカフェでフェアトレードの商品を販売する、福祉作業所のパンを販売して販路を拡大すると

いった取組や、移動スーパーで買い物する時のエコ活動でエコバッグを持っていく、袋を小分けにするといった取組に補助金を出している。また、この取組枠を使って SDGs の講演会をしてみようという地域もあり、従来の活動を SDGs の視点から見て、活動が広がりを持つという意味もあるので、この取組枠を使っていただき、区としても支援していきたいと思っている。

大岩議員：SDGs デザインセンターは、まだ知名度が低く、市の職員でも知らない人がいる。すでに実施している活動でも SDGs という観点から見直すことで、SDGs デザインセンターと連携できることもある。民間の企業と繋がって、人材や金銭面で出してもらっても良いと思う。希望ヶ丘の勉強会でも、できることからやるべきだという意見があった。旭区として、予算をつけてやろうとするとハードルが高いかもしれないが、ゴミのリサイクルなど、できることから取り組んでほしい。今日も、これまでペットボトルで飲み物を出していたのをやめて茶碗で出してくれているが、このように、今やっていることを少し変えるだけで簡単に取り組めるようなことがあれば取り組んでもらいたい。旭区からやれる取組が何かないか。

下田区長：今年度、SDGs に関する取組をまとめたタブロイド紙を発行した。SDGs デザインセンターの所長や日本における SDGs の第一人者の記事も載っている。先進的に課題解決に取り組んでいる地域だという旭区のイメージを出していくために作成した。今日の新聞にも載っていたが、AI による買い物支援やスマホでアプローチをするような地域の取組を、政府が公募するという発表があった。すでに若葉台で取り組んでいるようなことを他の地域でもやりたいということで手が挙がってくる仕組みができたと思っている。パートナーを増やすこと、資金を投入してもらい呼び水を作ることを目指している。民間企業と地域が組んで何かやりたいという動きやイベント支援の動きも出てきている。区民・企業の方が持ち込んでくれる空気を作って、その中で出てくる取組を支えていく、押し付けるよりは自然発生的な動きを誘導したいと思っている。個人的には、蓄電池が今後、広がっていくと思う。防災も含めて、地域の中で電気を作る時代が変わってきている。新しい技術と地域の安全、地域の中での効率化、そういうことを含めた新しい取組を、地域・企業からの発案を誘導してやっていきたいと考えている。

大岩議員：いろいろな SDGs プロジェクトが湧き上がってくるような情勢を作ってい

ただきたい。今日、区長はSDGsのバッチを付けているが、旭区の皆さんもバッチを付けてPRしてもいいのではないかと。他都市を見ると、環境未来都市宣言をした堺市では市役所にバナーを貼っていたり、古墳をSDGsのマークにした名刺を作ってPRしていた。横浜市・旭区は、まだPRが足りない。旭区こそ18区の中でPRして欲しいと思うが、御意見を伺いたい。

下田区長：SDGsのバッチをつけて地域の賀詞交換会に参加したが、必ずバッチについて聞いてくれるし、「勤めている会社でもSDGsに取り組んでいる」という話をしてくれる。だいぶ広めてきた中で、次のステップに入っても良いと考えている。バッチを付けることによって質問される、それに答えていくということを職員にも自主的に考えてほしいと思っている。バッチをつけることによるPRということも研究していきたい。

小粥議員：「あさひ魅力発見事業」の「旭区魅力・ライフスタイル等発信事業」で、子育て世代に向けた区の魅力発信とあるが、ターゲットはどんな層で、どのようなことをするのか伺いたい。

中村区政推進課長：子育て世代をターゲットにし、定住人口に結び付けるために発信していきたい。転入者アンケートを実施し、旭区のどこに魅力を感じて引っ越しをされたのか調査し、そこで見えてきた旭区の魅力や強みを積極的に子育て世代へ向けPRしていきます。

小粥議員：どこの子育て世代を対象としているのか。

中村区政推進課長：転入者アンケートでは、どこから引っ越してきたか、旭区以外のどこが候補地だったか、転入前の最寄り駅はどこだったかということも調査するので、効果的にPRできるところを割り出し、スポット的にPRしたい。相鉄沿線の3区で連携してPRしていきたいとも考えている。

小粥議員：旭区に転入してきてもらいたいので、発信するのは他区や他地域ということになる。相鉄・JRが直通し、東京へのアクセスも良くなったので東京にも発信するという事だと思うが、ダイレクトメールや吊り広告など、いろいろな方法がある中で、どうやって東京や他地域の人に旭区の良さをアピールするのか。

中村区政推進課長：ホームページやポスター・チラシの作成を考えている。また、相鉄とも連携してPRをしていきたいので、意見交換しながら考えていきたい。

小粥議員：「区民スポーツ事業」の「旭区民スポーツ祭事業」について、参加点があ



るので、全種目に参加できた連合が強いということがある。子どもの人数が少なくても子ども向けの競技に参加できなかったという連合もあるので、ボッチャを取り入れるというのは良いことだと思う。ボッチャの代わりに、これまであった種目を削るのか。

神田地域振興課長：元年度は 11 種目で実施した。2 年度から、女子ソフトボールと高齢者ゲートボールを実施せずにボッチャに移行する。この 2 種目は 10 年間の平均で参加率が低かったことと、元々スポーツ祭は 10 種目で始まっているため、運営面を考慮して 10 種目に戻し、ボッチャを盛り上げていきたい。また、これまで高齢者に偏った種目が多かったので、ボッチャで世代の連携を深めていきたい。

小粥議員：ボッチャの用具は各連合で購入するのか。大会用の用具を購入して各連合に配るのか。

神田地域振興課長：各連合に 1 セットずつ配る。元年度、施設協会とスポーツ委員が連携して第 1 回ボッチャ大会を開催し、地区センターに用具が 2～3 つあるので、なるべく同じ用具を購入し、各地区で予選会ができるように揃えたいと考えている。

小粥議員：「SDGs 未来都市の実現に向けた大規模団地」の「学校跡地の活用検討」について、ひかりが丘小学校の跡地は暫定利用が決まっていないが、資料に入っていない理由は何か。

中村区政推進課長：ひかりが丘小学校は跡地活用検討をしている。事業性の確認をしており、地域からのニーズも説明会等を通して把握している。公募に向けた検討を引き続き進めていきたい。

小粥議員：検討しているのであれば、資料に載せてもいいのではないか。別紙の関連事業費の推移の表を見ると、区局連携事業が無くなって区づくり推進費に含まれるということか。

中村区政推進課長：区局連携事業は 29 年度からモデル事業として実施し、元年度で終了する。2 年度は、区づくり推進費と温暖化対策統括本部からの区配予算で実施していく。

小粥議員：区づくり推進費も潤沢にあるわけではない。まだ途中段階の事業であるから、どのように進めていくのか、どうやって予算をとるのかをしっかりと考えないと、こればかりに区づくり推進費をかけるわけにもいかない。今後、よく考えてほしい。

「子育て支援情報提供事業」に「窓口環境整備」とあるが、具体的にはど

のように改善をするのか。

松田子ども家庭支援課長：窓口をより分かりやすく、子育て世代をお迎えするのにふさわしい明るい雰囲気にしていきたい。

小粥議員：現状は、すぐに相談の椅子があるので、別のところに移しても良いかもしれない。

「地域福祉保健計画事業」で素案作成、パブリックコメントとあるが、区として重要なものである。横浜市でも重要な基本計画等は議会に諮るかどうかという議論があるが、地域福祉保健計画やマスタープラン、運営方針の策定のような旭区政の推進に重要な案件について、区選出議員が入って議論する場を設けるということも重要。推進会議が2回開かれるようだが、区選出議員がどのように関わっていくのか。

小河内福祉保健課長：地域福祉保健計画は、現在、骨子案を作成しており、これから素案の作成となる。区選出議員には、パブリックコメントの前に説明し、御意見をいただきたい。推進会議には地域で活動されている区連会の代表者や福祉団体の代表者に入っていていただき、議員の参加は考えていないが、何らかの形で区選出議員からも御意見をいただければと思っている。今週の土曜日開催の「きらっとあさひ福祉大会」の中でも検討中の骨子案の内容、基本理念や目指すまちの姿などを説明する予定なので、御参加ください。

小粥議員：9月の区づくり推進横浜市会議員会議でも良いが、何らかの形で説明をお願いしたい。

「旭ウォーキングムーブメント創生事業」について、マップも作成し、機運を盛り上げてくれている。ウォーキングラリーも人気で参加者も多いと聞いている。簡単だという声もあるので、もう少しハードルを上げるか、景品を増やすなど、もっと盛り上げる工夫をしてほしい。地域ケアプラザだけではなく他の公共施設等も回るようにしても良いと思うが、御意見を伺いたい。

小河内福祉保健課長：昨年度から実施し、好評だったので引き続き実施した。今年度は13館のうち5ヵ所のスタンプを集めると、参加賞でミニタオルプレゼントとし、全館を回らなくても良いことにして参加しやすいようにした。2年度も参加しやすいように検討していきたい。

小粥議員：全館回ったら、もっと良い景品にするとか抽選でプレゼントとか、やる気が上がるようにしてはどうか。

「スポーツ推進委員事業」と「青少年指導員事業」は、同じ規模の予算が増減しているが、関係があってこのように増減しているのか。

神田地域振興課長：スポーツ推進委員と青少年指導員は2年に一度、ユニフォームを更新しているため、交互に予算を計上している。

古川議員：「あさひ魅力発見事業」の転入者アンケートはこれから実施するということだが、結果が出たら教えていただきたい。こども自然公園のパークマネジメントプランは局予算でやるということだが、このように、局事業でできることは局に任せ、自主企画事業費は旭区独自のことに使ってもらいたい。鶴ヶ峰の連続立体交差なども局事業で実施し、区づくり推進費からは費用がかかっていないが、旭区民の皆様に喜んでもらえる。敬老パスは地下鉄が通っていないから旭区民にはメリットが少ない。そういうことを考えて創意工夫し、旭区に予算を還元していくようにしてほしいと思うが、区長の御意見を伺いたい。

下田区長：こども自然公園は素晴らしい公園であり、相鉄・JR直通化の影響もあって動きが出てきている。魅力ある公園にしていけないといけませんが、広域公園でありながら大きなイベント用の施設や照明設備が備わっていない。イベントを開催しようとするとう費用がかかってしまうため、事業者負担が大きくなってしまいます。区要望という形で副市長に、最優先で予算化してほしいと要望した。今年、地域交通の支援で四季めぐり号の補助が入ってくるのも、同じ形で実現した。SDGsもそうだが、区予算だけでなく局に計上するものも含めて、そのような姿勢で行っている。先生方の応援もありがたいので、背中を押していただく形でやっていきたい。

古川議員：引き続き、頑張ってください。福祉分野は、なるべく局予算でやってもらいたい。SDGs 未来都市は横浜市全体でも進んでおり、将来的にクローズアップしていくべきではないかという議論をしている。SDGs 未来都市というと、みなとみらいのイメージがあるが、郊外部の拠点として旭区にSDGs デザインセンターがあっても良い。これだけのことをしているので、全国から視察に来てもらっても良い。北九州で商店街の真ん中にSDGsの理念を広げるステーションがあって賑わっていた。そういうことを今後考えても良いのではないかと。

先ほどの小粥議員の話に出てきた「あさひ魅力発見事業」の子育て世代に向けた区の魅力発信について、渋谷駅で配れば、都内の人たちに「旭区ってすごい」と思ってもらえる。旭区は緑が多く、物価が安く、人も温かく、

人情やコミュニティが残っている一方で、先進的な実証実験やジャズまつりなど、いろいろなことに取り組んでいる。区民の皆様に、地元を誇りを持ってもらいたい。3年後には東横線とも繋がるので、都内に向けてアピールし、人口が減っていくと言われている中で旭区は若い人がたくさん来て人口が増えていると言われるようになると良い。

佐藤座長：「旭区の「農」の魅力PR事業」について、地場野菜直売イベントの出店者はどのように選定しているのか。

神田地域振興課長：基本的にはJAなどに店舗や提供をしていただき、ふれあいファーマーズに販売を協力していただく体制で行っている。また、JAなどの直売所のPRも含めて行っている。

佐藤座長：ふれあいファーマーズというのは、どのような団体なのか。

神田地域振興課長：平成20年度～21年度に農の里づくりという事業を行った。その時の受講生が立ち上げたボランティア団体である。地産地消のイベントや販売のお手伝いをしてくれている。

佐藤座長：売れ行きはどうか。

神田地域振興課長：天気が良い時は完売になる。天気が悪いと売れ残ることもあるが、基本的には好調である。

佐藤座長：旭区内の専業農家・兼業農家の数はわかるか。

神田地域振興課長：2015年の農林業センサスという調査結果がある（5年ごとの調査）。旭区では総農家数が312戸、内訳としては自給的農家が166戸、販売農家が146戸となっている。販売農家のうち、専業農家が54戸である。

佐藤座長：「水・緑・花を暮らしに取り入れた旭区魅力アップ事業」の「温暖化対策推進」で、ジャズまつりや相鉄ロックオンミュージックでFCV（燃料電池自動車）・EV（電気自動車）を電源供給として使用とあるが、温暖化対策として、節電などのエコ意識は啓発しているのか。

中村区政推進課長：イベントでは啓発しておらず、FCVなどの実物を見て知っていただくというのみにとどまっている。

佐藤座長：せっかくの機会なので、啓発活動をしていただきたい。

神田地域振興課長：先ほどのご質問について、旭ジャズまつりでは啓発を実施している。

佐藤座長：国際園芸博覧会のプレイベントとして何かできないか、自民党でいろいろ考えている。今年はオリンピックがあるため横浜スタジアムと日産スタジアムは使いにくく、上瀬谷通信施設跡地はまだ利用できないことから、ピ

ヨンセのコンサートに大池公園(こども自然公園)を利用させてほしいという話があった。環境創造局から利用は難しいと言われたため、別会場で調整している。国際園芸博覧会のことなので旭区で開催したい、大池公園が脚光を浴びられると考えたが残念だった。今後、大池公園を利用できるようになると良い。二俣川という地名は運転試験場があるため知られているが、「旭区」や「相鉄」は知られていない。今後、旭区の知名度が上がれば若者の転入にも繋がるため、力を合わせて努力していきたい。

## 【報告】

### 1 消防署の機構改革について

(質疑なし)

## 【その他】

河治議員：白根通りの斉藤橋の工事が入札不調ということだが、その後はどうなっているか。

青木旭土木事務所副所長：昨年末に入札を行ったが応札ゼロだった。現在は再発注を行っており、2月中旬に入札予定。当初は1月から着手し、10月末までに道路拡幅予定だったが、再入札にかかる2ヶ月分が遅れ、年内には工事が終わる見込みである。

河治議員：四季めぐり号の実証実験はどのような状況か。

中村区政推進課長：昨年6月から実証実験を行っており、夏場は採算ラインに達していたが、冬場は外出が減るためか、採算ラインをやや下回っている。しかし、6月の本格運行は決まっているので、引き続き安定した利用者確保に向けて支援したい。

河治議員：鶴ヶ峰周辺の相鉄立体化はどのような状況か。タカナシ乳業周辺の本村道路は狭く、再整備が必要ではないか。

中村区政推進課長：立体交差に伴う周辺道路の整備については、こちらから局に情報収集はしていない。随時、把握しておきたい。

備 考

会議の議事録作成については座長に一任で異議なし。